

シーリングニュース



冬季号・目次

- ◎ 6 基材統一商品認定 JIS の審議経過について…………… 2
- ◎ 期待を担って登場!! 1 級シーリング管理士…………… 4
- ◎ 業界動向…………… 5
- ◎ 支部だより、ほか…………… 6

北海道、仙台、大阪、福岡

6 基材統一商品認定 JIS

紙面の都合上、要点のみをら列致しましたが、現在まだ最終決定の
またこの基材統一商品認定 JIS の審議経過内容は外部公表をする

6 基材統一商品認定 JIS の審議も 7 月の第 1 回本委員会からスタートし、小委員会、WG 会合せて 14 回を数え、いよいよ 2 月 15 日の本委員会にて大詰めを向えようとしています。いままでにも、合同分科会、月報にて審

議内容の途中経過につきましてはご報告しておりますが、最終段階を迎えた今、あらためて今回の認定 JIS が JIS A 5757 から出発しながらも、商品認定になるために大きく変わった事項についてご説明したいと存じます。

1

金属用、コンクリート用、ガラス用などの用途別区分がなくなり、主成分の違いによるシリコン系 (SR)、ポリサルファイド系 (PS)、

ポリウレタン系 (PU)、アクリル系 (AC)、SBR 系 (SB)、ブチルゴム系 (BU) の 6 種類に分類され、内容も定義づけされたことである。

2

また最も重要なことは、耐久性区分が従来の各用途別 1、2 級に変わり、圧縮加熱温度 90℃、拡大・縮小パーセント各 30% の 9030 というより

きびしい条件が新たに設定され、さらに 6 基材の機能をあてはめた 5 段階の区分がなされたことである。

表-1

区分及び記号	9030	8020	7020	7010	7005
耐久性試験条件					
圧縮加熱温度 (°C)	90	80	70	70	70
目地幅の拡大縮小 (%)	±30	±20	±20	±10	±5

3

耐久性の機能の種類別あてはめは表-2の通りである。

表-2 耐久性

	9030	8020	7020	7010	7005
シリコン系	いずれか 1 区分				
ポリサルファイド系	いずれか 1 区分				
ポリウレタン系	いずれか 1 区分				
アクリル系	いずれか 1 区分				
SBR 系	いずれか 1 区分				
ブチルゴム系	いずれか 1 区分				

上記の意味は、例えばシリコン系は JIS 受審において 9030 か 8020 のいずれか 1 区分を選んで受審することができる。ポリサルファイド・ウレタンは 9030、8020、7020 のうちの 1 区分を選択することができるということである。但し、耐久性試験は各種類とも、被着体 3 種類 (アルミニウム、モルタル、ガラス) の

うち自由に 1 種類を選択して行うことができる。

4

アクリル系、SBR 系の水性タイプについては初期耐水性及び低温貯蔵安定性の項目が品質試験項目として新設された。

Sの審議経過について

状態ではなく、場合によっては今後も一部変更の可能性もあります。
段階ではなく各会員の皆様方への御報告した次第です。

5

引張応力及び伸びは引張接着性となり、水浸せき後及び促進暴露試験後の2条件が追加され、表示項目ではあるが、(アルミニウム、モ

ルタル、ガラス)のうち用途とする^被接着体についてはこの試験を必ず行い技術資料に明記しなければならない、と変更された。

6

養生条件がシーリング材の硬化機構区分によって表-3のように規定された。

下表以外の養生は認められないということである。

表-3 養生条件

シーリング材の 硬化機構による区分	条 件		計
	前 養 生	後 養 生	
湿 気 硬 化 形 1 成 分	標準状態14日間	30±3° C 14日間	28日間
乾 燥 硬 化 形 1 成 分	標準状態28日間	30±3° C 14日間	42日間
反 応 硬 化 形 2 成 分	標準状態7日間	50±3° C 7日間	14日間

7

耐オゾン性試験の伸び(%)が表-4のように設定された。

表-4 耐オゾン性試験の伸び

区 分	標線間の伸び(%)
9030	60
8020	40
7020	40
7010	20
7005	10

8

引張接着性、耐久性に使用する試験体に従来通りの両側にスパーサーをはさむ1形と片側のみで片側をオープンにする2形が設定され、1形は2成分形シーリング材、2形は湿気硬

化形、エマルション形及び溶剤形のシーリング材に適用することに決定され、それ以外は使用できないように規定された。

9

その他の変更では、

- イ) 引張速度が5%/minから50%/minに
- ロ) 促進暴露試験の散水なしが散水ありに
- ハ) 耐久性の伸張のみの動的繰返しに伸張と圧縮の交互繰返しに
- ニ) 被着体のアルミニウム板のアクリルク

- リアー処理をなくし硫酸アルマイトのみに
- ホ) 一般用の呼称を通年用に
- ヘ) 製造年月日またはその略号が製造年月日を必ず入れる事に、変更された。

期待を担って登場!

1級シーリング管理士

長い間にわたり、日シ協が熱心にとり組んできた技能検定も、翌54年2月頃実技、学科の検定試験を経て、実現の運びとなり、1、2級技能士の誕生も目の前にきました。

申すまでもなく、技能検定は施工員を対象とし、管理士教育は、工事管理者ないしは、将来、管理者となるべき者を対象としております。

当然、その目的にふさわしい教育内容が盛り込まれることとなりました。その一環として当工業会では名実ともに、高度の管理能力を有する管理士養成を目的とし、シーリング管理士制度を改革し、新たに1級管理士を設けました。

今後工業会は日シ協と一体となって、管理士および技能士をそれぞれ育成強化し、業界における信頼の確保と地位の向上のために両会はこの二頭立馬車により全力投球をしようとしております。乞うご期待!

1級管理士のカリキュラムには、従来の基材、施工実数中心より、さらに、別表の如く外部の中堅指導者を講師としてお招きし、リーダーシップ、コミュニケーション

ン、建築の基礎知識、図面の見方、安全管理、危険物管理等の講義を加え、さらに、日シ協会員中のベテランにより、積算、工程管理、施工要領書の作成等の講義も加え、課目別テキストも新たに作成し、受講申込者に配布いたしました。もちろん、本講習のみにより1級管理士の全てをマスターすることはむずかしいことですが、工業会の目指す管理士像がほぼ明確化するものと思えます。本年度実施の1級管理士の講習会時間割表は別表の通りであり、3月中には、はなばなしく新しい1級管理士が誕生することと思えます。

なお、本年度の2級管理士講習会は、大体、3月中旬より4月下旬に行れる予定で目下準備を急いでおります。本講習にも、1級の講義内容の一部を加えてレベルアップを行います。

一方、本年3月中に、支部ごとに、シーリングハンドブックを使用し、2級管理士再教育を実施し、証明書の有効期限の書替えを行います。

日時 53年3月1日～5日

場所 家の光会館(東京都新宿区市谷船河原町11)

電話 03(260)4791～3

1級シーリング管理士講習会日程表

3月1日(水) (第1日)		3月2日(木) (第2日)		3月3日(金) (第3日)		3月4日(土) (第4日)		3月5日(日) (第5日)	
課目	講師(敬略)	課目	講師(敬略)	課目	講師(敬略)	課目	講師(敬略)	試験課目	出題数 満点
ポリサルファイド	紺家 正 (住友3M)	リーダーシップ コミュニケーション	長井 隆寿 (三井建設)	積算	操上 弘昌 (マサル工業)	建築の基礎知識	松本 洋一 (清水建設)	7 基材	10 100
シリコン	宮下 博 (信越化学) 菅 皓一郎 (東芝シリコン)			工程管理 施工要領書 その他		図面のチェック (サッシ、 カーテンウォール)	朝比奈和郎 (不二サッシ)	施工と施工管理 見積り 資材管理	10 100 10 100
ウレタン	伊藤 松夫 (保土谷化学)								
水性アクリル	農野 益人 (日東ポリマー)	安全管理	松隈 輝男 (竹中工務店)	資材管理	松下 実 (日本化成工業)			建築の基礎知識 図面のチェック	4 } 10 100 6 }
水性SBR	板倉 健 (日本合成ゴム)	施工	加藤由之助 (理建シール)	特定化学物質	農野 益人 (日東ポリマー)	〃 (PC)	松本 洋一 (清水建設)	安全衛生、特化物、 危険物安全管理	特3 危3 安24 10 100
ブチル	本田 正男 (ソニケミカル)			危険物の取扱 (指定数量以下)	中林慎太郎 (神田消防署)	〃 (ガラス)	竹内 嘉彦 (板橋子協)		
油性	木田 茂 (三洋工業)			工事保証 (JIS, JASS)	西沢順之助 (横浜ゴム)				
概説	笹谷 茂生 (サンスター化学)								
								計	50 500

注 講師の都合により一部変更があることもあります。

業界動向

この表は、基材別シーリング材と、関連する建築産業の最近3ヶ月ほどの動きと、今後3ヶ月ほどの動きをまとめたものです。なお、寸評は天気予報形式で状態を示したものです。

項目	最近の動き	今後の動き	寸評	
建築着工の動き	昨年11月の全建築物の着工床面積は1814万㎡で、前月比で0.7%減にとどまり、大きな変動はみられず2、3ヶ月は横バイ状態が続いている。不燃建築物の着工床面積の11月分は1038万㎡で前月比0.7%減と全建築物に比例した割合を示している。需要は依然として冷えきっているようだ。	53年度は一般会計で34兆円、財政投融资で14兆円の大型予算が組まれ、公共投資にわずかに期待はもてるものの、大幅な需要掘り起しにはつながらないとする見方が圧倒的。特に民需による商業・サービス関係による需要が冷えきっているため、むしろ厳しい見通しすら持たれている。		
業界	カーテンウォール	超高層ビルを中心とした大型物件が少なくなったため、2、3年ほど前から減少傾向が続く、最近も同じ状態を呈している。またコンクリートカーテンウォールとメタルカーテンウォールの総工費の差が縮まっているが、これは両者の競争が激化し、その結果コストの安いコンクリートカーテンウォールの使用が増えてきたためである。	ここしばらく大型物件の需要が低迷期に入っているため、昨年並みか、やや減少の傾向が予想される。このためコストの安いコンクリートカーテンウォールの人気はしばらく続く見通しであり、表面仕上げが吹付タイルからタイル打込み、花崗岩打込み等へと多様化している。	
	サッシ	昨年10月以降、前年比で約5%の減少をしており、相変わらず横バイ、もしくは減少の状態が続いている。サッシの需要先は一般住宅が7割強を占め、この市場をめぐる各社の競争が激化している。	サッシと直接結びつきの深い一般住宅の需要が、もうひとつのところで高まりを見せないため、苦戦が続きそうである。昨年比で5%前後の減少か、横バイの状態が予想される。	
	板ガラス	普通板・変り板ガラスの需要は前年比より1割程度の減少をみせているが、みがき板ガラスは自動車と強化ガラスの生産増に支えられ前年比20%増をみせている。	普通板・変り板ガラスは前年比ほぼ横バイ状態が続くもよう。新築住宅の需要がどこまで伸びるか注目される。	
	A L C	A L C板の需要は、オイルショック以後も他業種に比べ早い回復を示し、徐々に増加する傾向にある。昨年後半は前年比でやや増加しているが、これは店舗、住宅などを中心にした小型物件に需要の安定が図られているため。	当分大幅な伸びは望めないが、需要の底辺が拡大しているため、やや増加する傾向を含んでいる。カルテル破棄による価格のバラつきが心配されるが、混乱はないもよう。	
	壁面防水材料	昭和50年以降大幅な需要増を見せている高弾性の壁面防水材料は、防水+化粧という評価に支えられて好調である。これは壁面防水の重要性が一般的に認識されたことと、40%近くに及ぶ補修物件の増大が大きいため。	補修用と新規需要もひき続き好調が予想される。順調に需要が拡大すれば年間8000トンが期待される。メーカー数が増えてきているので、性能のまとまりと施工体制の整備が問題点として浮かび上がってきている。	
基材別	ポリサルファイド	伸び率は昨年並か、やや増。永年の実績によって安定した需要が続いている。	中高層以下の建物における伸びは期待されるが、全体としては、不燃建築の着工統計に比例して、いく分伸びが鈍るおそれもある。	
	シリコーン	2成分型を主とする低モジュラタイプが評価され大型物件に採用される傾向が強く、シーリング材全体の中にあって最も好調である。	大型物件を中心にした伸びがしばらくは期待でき、昨年来の好調を予想される。昨年と同じ伸び率を見せるか注目される。	
	ウレタン	亀裂誘発目地など、使用用途が増えてきており好調。経済性の良さで伸びてきている。	全体として比較的好調が続くが、シーリング材の価格競争に巻き込まれた場合、これまでの経済性の良さがどこまで発揮されるか。	
	水性アクリル	昨年後半から前年比でやや増加。A L C中心だったものが、P C板やスレートにも使用されている。	用途の中心はA L Cだが、そのカルテル破棄による影響がどうであるか。若干の不安定要素が外因として残る。	
	油性	昨年夏の天候不順の影響で10月以降はやや増になったものの全体としては、横バイ状態。	政府予算の効果がでるのはまだ先になりそう。全体の数量としては横バイ状態が続き、伸びはそれほど期待できない。	

支部だより

○北海道支部

秋から年末にかけて最も忙しい時期も、なんとか乗り越え新年を迎えました。年末は例年になく雪が少なく、工事も年内いっぱい続けられたことは我々にとっても幸いでした。その反面、新年は雪また雪で、全道白一色となりました。

支部活動

11月7日 定例会議 於：札幌市内ルナホテル

- 1) 情報交換
- 2) 本部活動報告
- 3) 価格見直し
- 4) その他

12月16日 定例会議 於：札幌市内ゆきぐに

- 1) 情報交換
- 2) 1、2級管理士講習等の報告
- 3) その他

12月16日は会議のあと引続き忘年会を開催し、年内の仕事の目度もつき、全員楽しい一夜を過しました。

新年はまだ顔合せをしていませんが2月中旬に定例会議を開催する予定で居ります。

○仙台支部

今年は昨年に比べ東北地方も暖かく、全国的にも暖冬ということですが、それでも仙台は寒さ厳しく、職人さんは特に御苦労されています。我々メーカーも寒さの中での品質管理には、これまた苦労も多く景気回復とあわせ春が待ち遠しい昨今です。さて全国の会員皆様には益々御活躍のことと思います。お蔭様で仙台支部も三年経過し、会員親睦という第一目的は出来、更に工事業にたずさわる人達の組織、東北シーリング工事業組合の誕生を見ることが出来たことは、大きな成果と喜んでいきます。

本年も昨年同様厳しい経済環境の続くなかで我々業界も相互理解の下に価格安定を願うものです。会員各位の御協力をお願いします。

尚、仙台支部2月行事は、

第一回例会 2月9日 於：仙台ホテル

新会員の紹介、他。

○大阪支部

報告

10月22日 材工懇親会が日シ協幹事会にて決定され、宝塚料亭若水に於て開催。武庫川の清水に沿い環境上々の同料亭では投宿の用意も有りとして名曲も出て晩秋の一夜を更かした。

同月31日 工業会大阪支部長、同副支部長池永(世界長)、日シ協佐伯(大阪防水)が集まり会合す。

1、2級管理士受講申込に關しての通知とその書類発信についての打合せを行った。

11月2日 前項の書類発信 (同月17日大阪支部必着として) 発信数53通。

同月17日 工業会大阪支部にて前記の回答集計(日シ協佐伯氏出席)。1級27名、2級33名回答書中書類上の不備のものもあつたが後日修正することとして取扱つた。

同月18日 東京本部理事会出席。管理士申込書等、支部長持参(不備のもの後日修正を約束した)。

11月21日 日シ協佐伯氏、日シ工支部長と会合。講習並びに試験実施に關しての具体化にて、ゴンラ講習は管理士受講希望の有無を問わず実施すると伝えられた。

同月22日 日シ協大阪支部会員内に於ての防水技能に關して労働局に於てシーリング技術の講義を要請され内海氏(世界長)が担当する。

同月28日 波多野一郎先生授彰祝賀会。支部長出席。

支部だより

支部だより

- 12月9日 本部理事会。支部長出席。
- 同月15日 日シ工支部全会員と日シ協幹事全員との合同協議会並びに忘年会開催。
日シ工幹事会。日シ協幹事会各単独に行い、次に日シ工報告並びに協議終了後開宴。
- 同月27日 副支部長池永氏調査の特化物受講方法（12月15日懸案）に関して佐伯氏と三者会合。
- 同月19日 支部長、副支部長新年合同会議に出席。（西熱海ホテル）。
理事会、合同分科会材工合同協議会、新年合同祝賀会が行われた。
- 1月30日 支部長、副支部長、佐伯氏集合。
管理士申込者の書類確認、宿舍受付、特化物受講結果後の取扱いに就て。
- ① 宿舍の件は個々随意に委す。
 - ② 特化物取扱講習の受講は1級管理士希望者全員可能にてその受講の証明書を（東京光の家）3月1日受付にて渡す。
 - ③ 管理士受講料 8,000円は前記受付で受取る。
 - ④ 当日支部長山本、日シ協佐伯氏が“光の家”会場受付に出張して②③を行う。
- （以上概要は既報重複もありますが、当支部内への通報にも役立つものとして便乗を乞うものです）

（山本 照夫）

○福岡支部

12月9日、日シ工、日シ協の合同幹事会を開催。日シ協より技能検定のスケジュール、日シ工に対する要望事項があり、工業会より年限保証・管理士講習会の説明。

12月26日臨時幹事会開催。53年2月11日再教育講習会開催を決定。

ニューフェイス

事務局

井手 伊武氏

昨年8月31日付で退職した中村前事務局長に代り、今年の1月6日付で、井手伊武氏が新しい事務局員に就任した。

井手氏は大正8年3月22日生れ。海上自衛隊、東京施工(株)などを経験され、このたび工業会にむかえられた。趣味は俳句と歌。以前藤原歌劇団に在団していたこともあり、いずれその自慢の喉をたっぷり聞かせてくれる日も遠くはない。北九州市小倉出身。



事務局だより

来る3月1日～5日の間、いよいよ待望の1級シーリング管理士の講習会開催の運びとなりました。受講者の受付、宿舍の斡旋、講師との連絡、テキストの作成、配布等これらの準備に忙殺されております。

一方、新商品JIS案の作成、JASSの改訂作業も間近く完了の予定となっております。

他方、2月中には郵便投票による来期理事候補の選出、確認を行い、3月中には新理事候補による新会長候補の互選、新副会長候補の指名、新委員長の決定等の経過を辿って、来期に向って新しい胎動を始めようとしております。

本誌が会員の皆様のお手許に届く頃には工業会本部の近くの湯島天神の〈湯島の白梅〉がそこはかとなひ淡い香りを放ちつゝ、白い清楚な花が開くことでしょう。

支部だより

日本シーリング工業会

東京都千代田区外神田2-2-17 共同ビル

TEL 03(255)2841~2

企画制作・日本シーリング工業会広報委員会

編集協力 (株)工文社 東京都千代田区外神田2-1-6

TEL 03(253)4230・3835
